



重要インフラにおける情報セキュリティ対策の状況 の検証（プロセス評価の補完）について

2007年 9月 28日

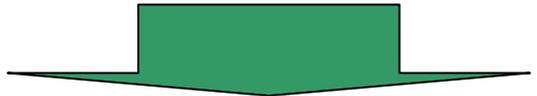
内閣官房 情報セキュリティセンター（NISC）

「プロセス評価」を補完するため、重要インフラにおける情報セキュリティ対策に関する変化の状況を把握。

行動計画に基づく取組みの結果として、重要インフラにおける情報セキュリティ対策がどう向上したのかを検証。(重要インフラにおける状況を総体的に把握・検証するものであり、各個別分野における取組みの進捗度合いそのものを評価するものではない。)

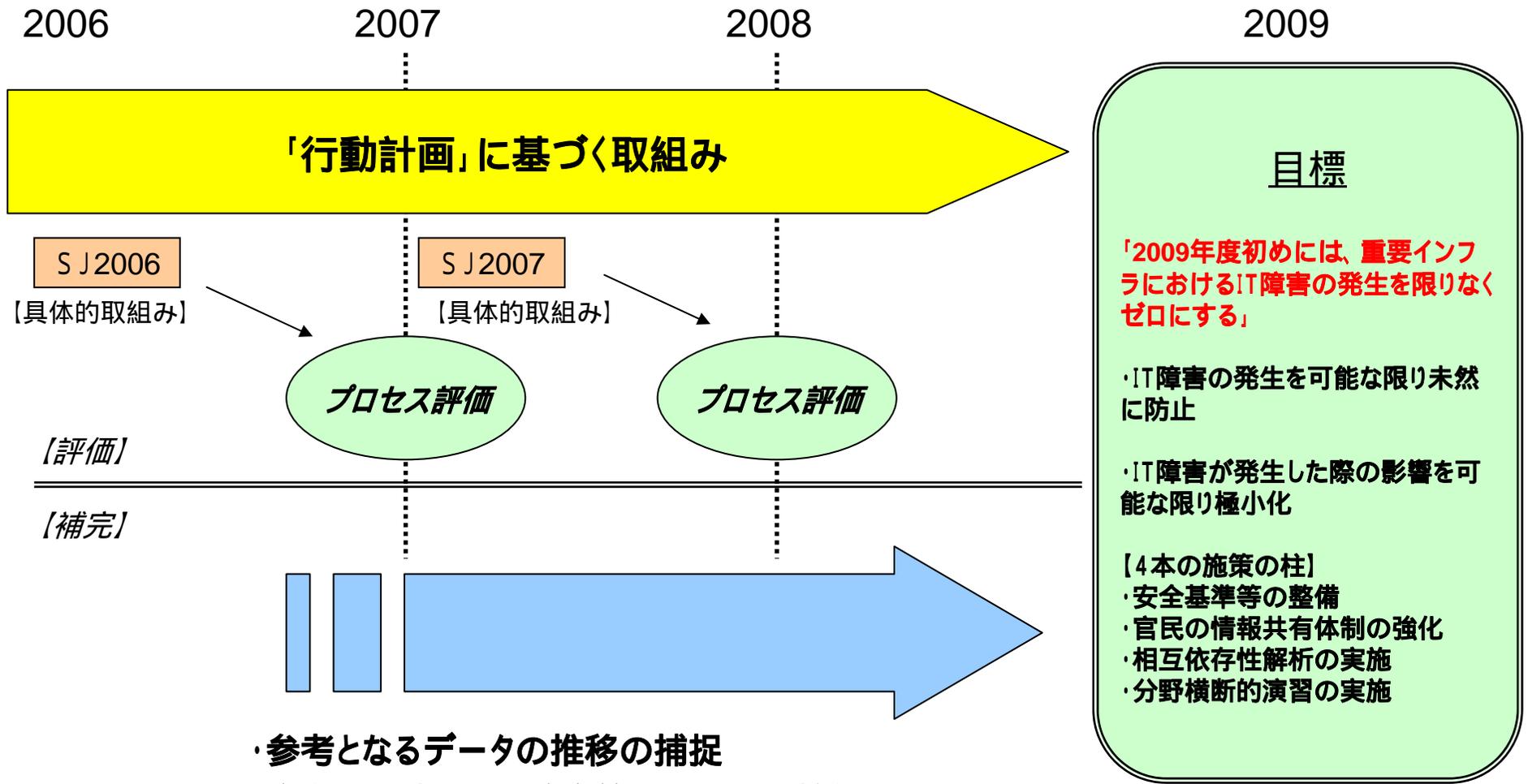
得られたデータは、行動計画見直しに当たり活用。

重要インフラにおける情報セキュリティ対策の評価は、行動計画で定めた4本の施策の柱それぞれについて、各年度ごとの目標(具体的取組み)に対する実施状況を把握し、その進捗度合いを指標とすることにより実施
～ 「重要インフラ分野における情報セキュリティ対策向上の取組みについて」(2006年11月27日)～



行動計画に定める4本の施策に関して**参考となるデータの推移**を捕捉しつつ、併せて**実際に発生したIT障害等のケース**を検証することで、重要インフラにおける情報セキュリティ対策向上の状況を把握。

各重要インフラ分野において、構成する事業者等の数や規模、IT依存の状況、いわゆる業法の範囲等、様々な特性が見られることから、すべての重要インフラ事業者等を対象とした詳細な調査やそれに基づく各分野間の比較、統一的な目標の設定を行うのではなく、重要インフラ全体としての傾向を把握することが適当。



- ・参考となるデータの推移の捕捉
- ・実際に発生したIT障害等のケースの検証

実際に発生したIT障害やITの機能不全等のうち、要因や対応等を把握・検証することで重要インフラにおける情報セキュリティ対策の状況の把握や向上に資すると考えられるケースについて、各重要インフラ分野の協力を得て検証。

推移を捕捉するデータ

1. 安全基準等の整備の状況について

- ・各分野における安全基準等の認知率(A /)
- ・各分野における安全基準等の見直し率(B / A)

：回収データ数

A: 認知していると回答した事業者等の数

B: 安全基準等を踏まえ見直しを行ったと回答した事業者等の数

なお、NISCにおいて検証する際の参考として、回収率(/)を把握。

：調査協力を求めた事業者等の数

取り得る具体的調査方法も踏まえ、各分野における状況を把握する上で適切な調査範囲を設定。

例: 全事業者、 加入者、 任意抽出など。

2. 情報共有体制の強化の状況について

・情報提供の件数

「実施細目」に規定する「情報提供」の件数(試験・訓練を含む。)

・^{セブター}CEPTOARを構成する事業者の数

なお、NISCにおいて検証する際の参考として、構成事業者の分野における位置付けを把握。

3. 相互依存性解析の実施、分野横断的な演習の実施の状況について

解析及び演習に要した年間延べ時間および延べ参加者数